

(様式1)

平成28年度 学校評価報告書 (学校評価結果のとりまとめ)

神戸市立小寺小学校
校長：前田 由紀子

項	重点目標(取組)	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
一人一人の伸ばす力への向け	・一人一人に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。	・本校児童は学習に対し素直で真面目に取り組むが、受け身になりがちである。主体的に学ぶ子供を目指し、一年間取り組んできた。	B	・力のつく授業研究会を実施したことで子供たちの意識が変わってきた。今後も職員研修に力を入れ、継続して取り組んでいきたい。	・先生方の学校評価は各項目について5段階評価をし、数値化していたが、〇〇までできたら5、〇〇ができたなら4というように具体的な評価基準があると評議員としても分かりやすい。
	・確かな学力の育成、読書活動を推進し、継続的な読解力の蓄積をはかる。	・平成28年10月より学校司書が配置された。学校図書館の整備、読み聞かせやブックトーク、並行読書の選定など、児童の読書活動が徐々に充実してきている。	A	・できることから始める形で、司書の活動が年度途中からスタートした。来年度は、一年間を見通した取組を実施していきたい。	
	・配慮を要する児童に対し学習や行動の支援充実を図る。	・関係機関との連携が重要になりつつある。また、SC等の活用も増えてきている。今後も連携を密にし、助言を受けながら、児童の支援を行ってきたい。	A	・今年度同様、関係機関との連携を密にしつつ、校内では情報の共有化をしっかりと図り、全職員で児童への支援を行う体制を整えていきたい。	
実教職員を磨き、学校の魅力と	・1学期の運動会、2学期の音楽会。魅力ある学校行事を創る。	・運動会では組体操を実施した。練習時から多くの教員が補助に入り、最大限安全面に配慮しつつ取り組んだ。運動会や音楽会に全力で取り組む姿は、保護者や地域から評価を受けている。	A	・一生懸命取り組む子供たちの姿は、保護者、地域の方々より好評を得ている。行事を通して培われる「仲間づくり」「達成感」を今後も大切にしていきたい。	・毎年新たな取組が始まっているようだが、それが教師の多忙化にはつながっていないだろうか。職員室を訪れた際、疲れた様子の先生方をたまに見かけることがある。先生方にはいつも明るく元気に子供たちに接していただきたい。そのためにはどうすれば良いのか、神戸市全体として考える必要がある。
	・安心安全な学校生活をおくることのできる環境作りに努める。	・校舎は築30年以上経過し、傷みが目立つようになってきている。注意深く点検し、できるだけ迅速に補修、改修を進めるようにしている。	B	・登下校時の見守り隊、保護者の午後パト、休パトなど、地域の協力も得ながら、校外での子供たちの安全も確保していきたい。	
	・ホームページ等を活用した学校情報の積極的な発信に努める。	・HPの更新がなかなか定期的にはできなかった。また、学年によって取組に差がある感は否めず、今後の課題である。	B	・HPは学校情報発信の大きなツールの一つであることを職員間で再確認し、各学年の担当者を中心に積極的な更新を図りたい。	
更に発展させる神戸の教育を	・生きる力の基礎となる「言葉の力」の充実	・コミュニケーション能力の育成を図るため、授業ではペアトーク、グループトークなどグループで話し合う活動を積極的に取り入れた。	B	・コミュニケーション能力は、今後の世の中において、ますます必要になる大切な能力の一つである。国語に限らずどの教科においても、取り組みを進めたい。	・小寺の子供たちは、あいさつのできる子が多い。それはよい点ではあるが、今後は、相手が気持ちよく感じる明るいあいさつが常にできるよう、あいさつの質を高めていきたい。校内においては、顔見知りだけではなく、来客者に対しても心のこもったあいさつができるよう、指導したい。
	・震災22年目からの防災教育を推進する。	・今年度は、新しい試みとして1月の授業参観で、全クラス防災に関する授業を行うことにした。追悼集会、避難訓練(シェイクアウト訓練)も同日に行った。	B	・一月に追悼集会、避難訓練、防災授業(参観)を一日の流れで行った。これは、子供たちだけではなく、保護者を含め我々大人も1.17を振り返るいい機会となったのではないだろうか。	
市民が自ら学び子供を共に支える	・ゲストティーチャーをはじめとする外部人材の積極的な活用を図る。	・「交流田活動」「しめ縄作り」「昔の遊び」「昔のくらし」と多くの行事で、地域の老人会のご尽力をいただいた。	A	・子供たちのためにと地域の老人会(学園長寿会)の方々には毎年多くの行事でご足労いただいている。その場だけではなく、普段出会った際にも感謝の意を伝えられるよう指導したい。	・幼保小の連携は、今年度より「つばめプロジェクト」として、本格的に始動した。昨年度は音楽会練習見学、小寺まつり招待以外は1年生との交流のみだったが、今年度は1年生、4年生、5年生との交流を企画し、実行することができた。来年度以降もお互い無理のない範囲で交流を深めていきたい。
	・行政機関、大学等、地域施設との連携を深める	・大学、児童館、区役所、幼稚園、保育園など、様々な地域施設との交流を行い、子供たちの教育活動に役立ててきた。	A	・「性に関する指導」「命の感動体験」「つばめプロジェクト」などは、地域施設があつてこそその活動である。この恵まれた環境を生かし、さらに連携を深めていきたい。	

*セルの数や大きさは、変えていただいてかまいません。